

早稲田大学 法学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問5題で4題は選択式、1題は論述という形式は不変。また大問Ⅰ～Ⅳの小問数と選択肢の形式も昨年と全く同じ。選択問題の数は34題で2020年・2019年と同じ。論述250～300字(2015年は200～250字、2016年以降は250～300字)1題で形式・分量ともほぼ同じである。論述は2011年「中国現代史」、2012年「近代の欧州の英・蘭関係」、2013年「19世紀末から国際連盟にいたる戦争回避の動き」、2014年「中国現代史」、2015年「民族自決の理念波及」、2016年「ドイツ統一」、2017年「航海法」、2018年「露の南下政策と東アジア進出」、2019年「中世ドイツにおける教皇権と世俗権力」、「19～20世紀の米・メキシコ関係」で、今年は「1701～63年時代の英の対仏・墺関係」であった。全体として難易度は前年に比べてやや易化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	中国の歴史における宗教と思想	2020年「中国王朝の陵墓」・2019年「故宫博物館」・2018年「中国史の各時代・各王朝の特徴」と一貫して中国史をテーマ。設問1:誤文は①。董仲舒は前漢武帝時代の人。設問2:正解は④。①の「四書」は「五経」、②の「考証学」は「訓詁学」が正しい。③は「朱熹」と「周敦頤」が逆転。設問3:①が誤文。仏図澄は五胡十六国の一つ後趙の保護を受け洛陽で活動したので「江南」は誤り。また鳩摩羅什とは違って訳経は行わなかった。設問4:②「白蓮教」は易しい。設問5:①は「ムハンマドの子孫」が誤り。正答カリフ初代アブー＝バクルはムハンマドの3番目の妻アーイシャの父、つまり義父である。ちなみに2代カリフのウマルはムハンマドの4番目の妻の父でこれも義父にあたる。設問6:④「マリンディ」はアフリカ東岸の都市で現在のケニアに位置する。鄭和来航ののち明(永楽帝)にキリンを献上したことで知られる。設問7:正解は②。①オイラトはアルタン＝ハンではなくエセン＝ハンが正しい。③「清との朝貢関係は途絶えた」が誤り。清と琉球の冊封に基づく関係は明治維新後も続き、関係が絶たれるのは1879年の沖縄県設置である。④15世紀に明軍を退けたのは陳朝ではなく黎朝(1428～1527・1532～1789)。設問8:③は「アシエンダ」ではなく「エンコミエンダ」が正しい。またラス＝カサスはドミニコ会士。設問9:③三藩の乱を起こしたのは鄭成功ではなく呉三桂。	標準
II	暦の歴史	設問1:正解はウ。ア-シュメール人の民族系統は不明が正しい。イ-楔形文字の解読はローリンソン(英)。ヴェントリス(英)は線文字Bの解読者。エ-バビロン第一王朝を建国したのはアムル人。設問2:正解はイ。ギリシア人の進出地域は南イタリアであり、重装歩兵戦術はギリシア人から直接ではなくエトルリア人経由で受容された。設問3:正解はウ。ア-スラはディクタトルとなって独裁をしき、元老院の権威の回復をはかった。イ-同盟市戦争を鎮圧したのはスラ。エ-『ローマ建国史』はリウィウスの著作。さらに混合政体はポリビオスの主張。設問4:正解はイ。622年という年代から簡単に選択できる。設問5:ウの「アラブ帝国」は「イスラーム帝国」が正しい。設問6:正解ア「フワーズミー」は易しい。設問7:リード文のなかの「自然科学」からエ「ロジャー＝ベーコン」とすぐわかる。設問8:正解はイ。ツヴィングリの舞台は「ジュネーブ」ではなく「チューリヒ」。設問9:正解はウ。ブリュメール18日のクーデタで打倒されたのは総裁政府(1795～99)。	やや易

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	アイルランドの歴史	設問1:正解は4。アルフレッド大王が撃退したのはデーン人。「ケルト人の英雄」とされるのは伝説上の人物アーサー。設問2:正解は2。「早くから鉄器」の記述はヒッタイトに直結する。設問3:正解は3。1-初代ローマ教皇とされたのはペテロ。2-モンテ=カシノの修道院は529年、6世紀前半のこと。4-シトー修道会はフランス東部ブルゴーニュ地方で創設。設問4:正解は4。1-1534年は国王至上法(首長法)。2-メアリはカトリックで弾圧されたのは新教徒。3-スチュアート朝はスコットランドとの同君連合。設問5:正解は3。年代に自信があれば簡単だが、そうでない場合はどうするか。まず先頭に「先住民強制移住法」がある1と3に絞る。次に「カリフォルニアでゴールドラッシュ」か「カリフォルニア獲得」の前後を考え、「獲得」が先が順当と判断する。設問6:正解は1。1973年は英・アイルランド・デンマークが加盟して「拡大EC」が成立した年。それまでは仏・西独・伊・ベネルクス3国の6カ国だった。ECに関しては73年に加え、81年ギリシア、83年スペイン・ポルトガルの加盟を押さえておきたい。93年のEU成立以後は、2004年の東欧・南欧諸国10カ国の加盟がポイント。設問7:2「ヘンリ2世」、設問8:4「アルスター」は基礎事項。	標準
Ⅳ	清末の中国	設問1:正解はハ。「東清鉄道の一部利権」は日露戦争の講和条約であるポーツマス条約(1905)の内容。設問2:正解はハ。「1905年以後」なので旅順・大連は日本の勢力下となる。設問3:正解はロ。「政治体制の抜本的改革」はなされていない。「中体西用」を想起すればすぐわかる。設問4:正解はニ。イの変法派が動かしたのは光緒帝。ロ-康有為が改革者として再評価したのは「孔子」。ハ-梁啓超は戊戌の政変以後日本に亡命して活動を続けた。処刑された変法派は譚嗣同。設問5:正解はロ。イ-五港の開港はアヘン戦争の南京条約(1842)。ハ-「外国使節の北京常駐」「キリスト教布教の自由」はアロー戦争の天津条約(1858)。ニ-「領事裁判権」「協定関税制」は五港通商章程(1843.7)と虎門寨追加条約(1843.10)の内容。設問6:正解はイ、設問7:正解ハはともに易しい。設問8:正解はニ。中華民国建国(1912.1.1)→中国共産党結成(1921.7)→南京国民政府成立(1927.4.18)の順。一見するととっつきが悪そうだが意外に簡単。南京国民政府とは北伐途上の蒋介石が上海クーデタ(1927.4.12)で共産党を弾圧した事件の直後に成立。国共合作を維持する武漢国民政府と南京国民政府が対峙する状況となった。この前後がわかれば正答に直結する。	標準
Ⅴ	1701-63年時代の英の対仏・澳関係	1701年はスペイン継承戦争(1701~13(14))開始の年。1763年は七年戦争(1756~63)終結の年。この間の英の対仏関係といえば北米とインドという海外植民地での覇権争い。仏と植民地の覇権を争奪するという目的のためオーストリアとの提携と対立という逆転が外交革命を転機に発生したことを記す。昨年の「19~20世紀の米・メキシコ関係」に比べると単純なテーマでまとめやすい。	標準

[総合コメント]

法学部の正誤判定問題は近年易化の傾向にあったが、今年も難化はみられなかった。以前目立った山川用語集の新版には出ているが旧版にはない部分からの出題もなくなり、新版の山川用語集を使い込んでおけば知識量での心配はなくなった。一昨年までくせがあった年代配列問題は昨年に続き易しかった。年代そのものに自信がもてなくとも、二択に絞れば解答しやすい。この種の難問は早大他学部の過去問に出題例が多いので練習問題としてこなしておくことをすすめたい。法学部定番の250～300字論述。今年は時間軸にそってたんたんと書けるテーマだった。基礎的知識と時間さえあればそれほど難しくはないが、やはり書きなれていないと書き直しを迫られて時間をとってしまう危険はある。問題数をこなして文章をかくことに慣れておきたい。読み手からすると書き手が慣れているかどうかは簡単に判別できることは忘れないでほしい。法学部の過去問はもちろんのこと、国公立大学の二次試験問題も加えておきたい。